

国際交流基金助成事業報告書

薬学部3年次生 佐々木真衣

1. はじめに

2019年8月18日から25日までの期間、国際交流基金の助成を受け、バンクーバーサマープログラムに参加したことについて報告いたします。

Oxford International /Eurocentres Vancouver で医療英語を学んだり、現地の施設見学をしたり、現地の医療従事者からお話を聞いたり、ホームステイで文化の違いにふれたりしました。

2. 授業

バンクーバーでは、Oxford International /Eurocentres Vancouver にて、一緒に参加した14人で構成されたクラスで、医療英語レッスンを受けました。授業はすべて英語で、英語が苦手な私にとってはとても不安でした。しかし、先生はわかりやすく説明してくださったり、授業中はペアを組んで授業を進めることが多く、そこでお互い教えあったりしたので、わからないまま進むことがなく楽しく英語を学ぶことができました。授業中に学んだ医療英語を使ってゲームをしたときには、ただ覚えるという動作よりも早く覚えることができたということを実感したり、ペアを組んで先生の出した話題について英語で話し合ったりしてスピーキングの力も付いたと思いました。また、ペアは毎回変わるので、みんなと話すことができ、そこで仲良くなれた気がします。

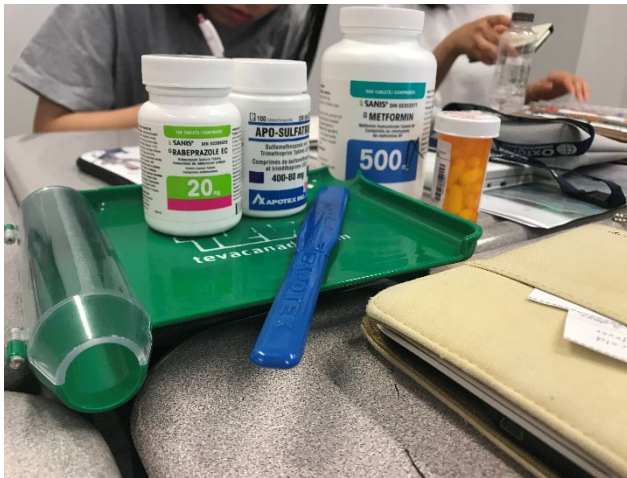
3-1 施設見学

薬局、クリニック、血液検査施設、超音波検査施設などに行きました。一番驚いたことは、カナダで使用されているレントゲン検査機器がとてもコンパクトで、日本のものとは全く違ったことです。カナダのレントゲン検査機器は、日本で言うエコー検査機器のようなものでした。また、カナダでは、骨折などをして体の中にボルトなどを入れる場合には、部品すべてに番号が付けられており、それが誰の体の中に入っているのかという情報がすべて記録されていると聞きました。日本では考えられないことであつたのですごいなと思いました。実際に手術室に入らせてもらったりして、日本でもなかなか経験できないようなことや、他国との医療機器の違いを実際に見学することができ、いい機会になりました。

3-2 ゲストスピーカー

ゲストスピーカーでは、薬剤師の方のお話しとナースプラクティショナーの方のお話を聞きました。日本とカナダの薬剤師の業務の違いは、処方権があることや、予防接種ができるなど思っていたよりもたくさんありました。またアシスタントのミスもすべて薬剤師の責任であつたり、一人で決断しなければならないことも多くあつたりと大変なこともある一方で、薬局に薬剤師が一人なので、自由にすることができて働きやすいということなど、実際に働いてみないとわからないことまで聞くことができたので、すごく貴重な時間になりました。看護師と医者仕事を合わせたような仕事をするナースプラクティショナーの方のお話も日本にはそういう人がいないの

で、とても貴重なものでした。ナースプラクティショナーの方は薬の相談は薬剤師にするので、薬剤師はいなくてはならない存在であるということを聞いた時には、カナダでは薬剤師はすごい存在であるのだなと思いました。



←実際にカナダで使われている薬を入れるボトル

4. ホームステイ

私は、ホームステイをするのが初めてだったので、とても緊張しましたが、あたたかく迎え入れてくれました。学校までの行き方を一緒について行って案内してくださったり、怪しい人がいたら～と言うんだよなど、本当の母親のように色んなことを教えてくれました。そのおかげで安心して1週間を過ごすことができました。朝ご飯には、ご飯がでてきたり、昼ご飯には、サンドイッチ、夜ご飯には、ビーフンやラザニア、パスタ、リゾットなどすべてが美味しかったです。

5. 観光

午後からのゲストスピーカーのお話や、施設見学をした後に時間の許す限り観光をしたり、買い物に行ったりしました。みんなでイングリッシュベイに行き夕日をみたり、スイーツを食べに行ったりととても楽しい時間を過ごしました。



↑イングリッシュベイにて



6. 最後に

カナダに行くことも留学することも初めてでしたが、優しいカナダの人達や、先輩、後輩のおかげでとても充実した1週間を過ごすことができました。帰りの飛行機の中で隣の方がインドの方で、その方と英語で話をして仲良くなれたこともまたいい思い出になりました。また、その1週間という短い間でしたが英語を話す力が少しついたのかなと実感して、嬉しかったです。もっと英語の力をつけたいと思いました。

今回の貴重な経験をこれから生かしていきたいです。



↑スタンレーパークにて